

牛乳つづり方教室

北海道牛乳、乳製品消費対策協議会が、北海道の小・中学生の皆さんから、牛乳、乳製品の愛用を目的とした作文を募集いたしました。たくさん作品が集まりました。その中の優秀作品をここに発表いたします。クローバーやデントコーン又は家畜ビート等を沢山食べた牛から出る「完全な栄養食品」牛乳がもつともつと皆さんに愛用されることを心より願っております。(編集部)

牛乳を飲もう

室蘭市立常盤小学校四年 福井 和義

「ただいまあつ」

と、元気よく学校から帰つてくると、

「おかえりつ」

と、やさしく、母がむかえてくれる。それを聞くとなぜだか「ほつ」と、する。

「ああ、おなかすいた。おやつは、おやつ」

と、母にさいそくすると、

「はいはい」

と、茶ダンスからジャムサンドを出して来てくれた。さつそく飛びついたら、

「台所にある牛乳も飲みなさいよ」

と、おくの室から言われた。今日の学校の

できごとやいろいろなお話をしながらおやつを食べたら、母は、

「このごろだいたい寒くなつたけれど、足の

うらがいたくならない？」と、聞いた。ぼ

くは、

「だいじようぶだよ」と言うのと、

「でもね、ぼうや小さい時、寒くなると、

足の指のうらがよくわかれていた、いた

と、泣いたんだよ」

と、泣いたんだよ」

「四、五さいのところだつたよ、でも、ぼう

やは生れた時、二千四百歩しかなかったの

で小さいときは弱虫だつたよ。いつも牛乳

を飲ませていたから、それがきいたかもし

れないね。」

と、言つた。

「まだ、ほかにないかい」

と、ぼうが聞いたら、おかあさんは、

「生れてから、百日ぐらいたつたらおちち

が足りなくなつたのでミルクのませたり、

半年ぐらいいしてから、パンを、ミルクで、

たいたの食をさせたよ」

と言つた。

「おいしい、おいしいつて食べたかい」

と、聞いたら、

「ベチョ、ベチョつて、口を鳴らしてまん

ままんまつてよるこんで食べたよ」

と、言つた。だから、ぼうは今こんな感じ

と、言つた。

好きになつた牛乳

豊富町立兜沼中学校一年 金子 寿代

私が五つの頃の事だつたと思います。

遊びから帰つてくると、母が板の間に、

しよんぼりと、腰をかけていました。父は、

奥のへやにねていました。昼間なんか、ご

ろねをする位で、ふとんをしてねた事なん

かない父なのに、私はびつくりして、母に、

「おとうさん、どうしたの」と聞くと、

「おとうさんはね、病氣なんだよ」

と、教えてくれました。後になつて、わか

つたことなのですが、「肺浸潤」という、病

氣だつたのです。母は、しよんぼりしてい

るし、家の中が、あまり静かなので、いつ

もははしやいでいる私も、なんだか、しよ

んぼりしてしまいました。そして、幼な心

の中にも、

「おとうさん、早く治ればいいなあ」

と思つたのです。それは、父が、いつも私

たちと遊んでくれたからかも知れません。

母は、父の病氣を心配して、いつも、バ

ターや牛乳を買つて来て父に食べさせてい

よぶになつたのかもしれない。ぼうは、バ
ターもチーズも、大すぎだし、牛乳は毎日
飲んでるし、ますますじようぶになるこ
とだろう。

よいからだになつて、りつばな人になろ
うと思う。

ました。

私は、バターや牛乳は、あまり好きでは

ありませんでした。父が食べているのを横

目で見ながら、どうして、牛乳やバターが、

私たちの体に良いのだろうと、よく、母に

たずねたものでした。又、父に、

「バターや牛乳がきらいだつたら、おまえ

も体が弱くなるぞ。少しずつでも、食べな

いとだめだよ」

と言われました。父は、いつも朝食のとき

にバターを御飯にかけてくれました。そし

て、きらいなものもがまんして食べている。う

ちに、だんだん好きになつていつたので

す。父が良くなつてくると、父とふざけて

遊びながら牛乳を飲んだものです。そし

て、父の病氣も三カ月ほどで全快し、明る

く、楽しい家庭が、できていきました。あ

のときのバターや牛乳が、父の病氣の全快

にずいぶん役立つたと考えています。

この頃では、毎日バターを食べています。

妹などは、朝、食卓にバターが出ていないときには、

「バターは？」

と、さいそくするほどです。

学校への行き、帰りに、いつも通る牧場には、牛や馬が、いつもものんびりと、青草を食べているのが、目につきます。私達を時々、その大きな目で、見つめていることもあります。朝、ペしやんこだつた牛の乳も、夕方には、今にもはちきれそうになつて、

僕は酪農家の子供です

上川町立上川中学校一年 藤田浩

僕の家の農場は大雪山のすぐ下の高台にあります。大雪山の雪がすその方から消えはじめると、農場は小鳥の囀りのようにうぐいすやひばりのさえずりで急ににぎやかになり電気牧柵の中で、牛があごの下を長くのばして、ミルク色の空をながめ、のどかに、モーとなくのです。みどりの色の牧草が、春風にそよそよと吹かれ、たくさんの牛がのんびりと遊んでいるのはとても気が持がよいものです。ほとくの家では搾乳牛が七頭と仔牛が三頭います。牛にはマダムとかカメオとかアマリスとかカーネションとかきれいな名前が皆ついています。僕の家には、一日に二斗四升も牛乳の出るヴィ

と言いたそうに、歩いていきます。私は時々、「こんな牛から、どうして、おいしい牛乳が出るのかなあ」と、不思議に思います。この辺は、酪農をして

している家が多く、牛をどこでも、飼育しています。ほしい時には、いつでも、しばつたばかりの新鮮なおいしい牛乳が、腹いっぱい飲めます。バターや牛乳は、栄養のあるものですが、もつと沢山食べて、もつと、健康な体になつてこそ、明るい家庭、楽しい家庭ができていくのだと思います。

マンという牛もいます。僕は牛と遊ぶのが大すきで、僕が「モーモー」とよぶと仔牛は僕のそばに来てはなをすりつけます。浩は牛乳でそだつたのだから、お母さん牛が返事をしてくれるわね」とお母さんがいますので、僕が牧草畑に向つて「オカアサン」というと、牛が「モー」と返事をしてくれます。僕は小さい時から本当によく牛乳をのみました。牛乳をのむからでしようか、すもうをとつてもめつたに人にまげません。病気をしたこともありません。僕は毎日牛といつしよに生活して大きくなつてきました。僕は毎朝五時に起きてお兄さんと乳しほりを始めます。夜おそくまで勉強

していたり、テレビを見ていたりした朝は甘い乳のおいをかき、あたたかい牛の身体にさわつていると、気がよくなつてう

つらうつらねむりながら乳しほりをして、牛にけられたこともあります。しかし、僕のしばつた牛乳がミルクプラントで殺菌され、学校や会社や方々の家庭や、病院におくられて、赤ちゃんや病気の人や生徒やおじいさん、おばあさん、働いているお父さん、いそがしいお母さんによるこぼれて飲んでもらうのだと思うと、ねむいぐらいな

でもありません。「じゃじゃじゃ」と気持のよい音をたててまつ白い牛乳が、ピカピカ光る搾乳バケツに一ぱいたまると、こし布でこし輸送管に入れて、よく冷して集乳自動車につみこみます。集乳自動車はつきつきと牛乳をあつめて、町の農協のミルクプラントへはこんでいくのです。僕の家の牛は、夏は牧草畑で一日中青草をたべ、冬はカブやビート、エンシレーシや乾牧草をたべて乳をたくさん出します。僕は夏休みや農はん休かにはサイロに切りこむデントコーンや、カブやビートの草取りをしたり、収かくを手伝つたりします。天気の良い日に、モアーで刈りつた牧草がほし上つたのは、本当にいいにおいがして僕は

で雪をはね、道をあげながら、馬は腹までつかえるほどの雪道を、びつり牛乳のいつた重たい輸送管がひつくりかえらないように、きをつけながらがんばつてい

ます。それでも、僕の家の牛乳を今日も、大ぜいの人がまつているのだと思うと、僕はやりがいがあると思つて、耳がちぎれるほどつめた朝でもがんばつて牛乳を出します。どんなにふぶいても、牛乳をまつている赤ちゃんや病気の人の、牛乳がとどかなかつたら、どんなに困まるだろうと、すべつてひつくりかえりそうになる馬そりの牛乳管をおさえながら僕はいつも考えます。

僕がこのごろ見たお母さんのぎつしに牛乳の事が出ていました。ピタミンAの一日量は牛乳六〇〇㍑にふくまれています。ピタミンBもDもふくまれています。牛乳は消化も良く完全食ですからみんなでもつと牛乳をたくさんのみましよう」と書いてありました。本当に僕は牛乳がたくさんのめて幸せです。かぼちやにかけてたべたり、つぶしたいもにかけてたべたりするのも大すきです。ほくは明日も、朝五時から乳をしばり一生けんめい牛のせわをして、安くておいしい脂肪のこい牛乳をたくさんしぼつて、みんなに牛乳をたくさんよるこんで

